

性感染症講話感想文

若狭東高校

過日、当院院長中山茂樹 Dr.が若狭東高校において性教育の一環として「性感染症」についての講演を行いました。それに対する生徒の感想文が寄せられましたので、その一部を記載します。

◎性行為や性感染症の知識を今日沢山学びました。今の世の中、性行為を学生の時にしている人はたくさんいると思いますが、それで女の子の人が妊娠し、中絶するというのはとても悲しいことです。小さいとはいえ人命を殺すことになってしまうのだから本当に性行為についてはみんな責任をもってやってほしいです。

◎性感染症の恐ろしさを初めて知りました。また、それで死ぬ人がいると聞いてこわいなと思いました。

◎相手を傷つけないためにもコンドームは大切だと分かりました。子供を作るなら元気に産まれてきてくれるようにしなければならない。男は余り傷つかないけれど女の子は傷つくことが多いので、しっかりと相手の人を思って幸せにできるような方がいいのかなと思いました。

◎性感染症の写真を見てそれを避けることの大切さを改めて知った。軽い気持ちですると将来子供を産めなくなったり、苦労したりするのでよく考えて行動しようと思いました。

◎自分の体はしっかり自分で守ろうと改めて思いました。「まさか自分は…」なんて今の時代あり得ないんだなとおもいました。遊びで性行為をしまえば責任を取れず、女性にも自分にも親にも迷惑をかけてしまうのだと思いました。

◎性感染症により子供が産めなくなるということはすごく辛いことなので予防が大切だと改めて思いました。あやしいと思った時は恥を捨てて検査

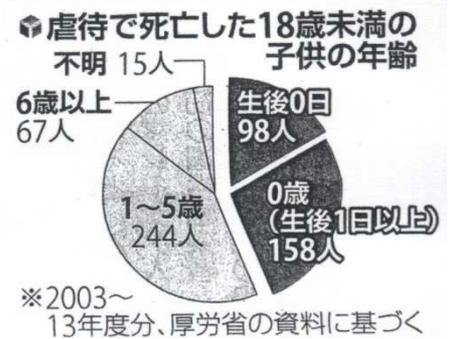
に行こうと思います。いくら相手が好きで気を許していても性行為についてはしっかり疑ってかかると思います。子供はしっかり産みたいですし、自分も相手も子供もみんな健康で過ごしていけることが何よりの幸せと思いました。

望まぬ妊娠、虐待予防、産院をケア

厚生労働省は来年度、望まない妊娠に悩む女性を支援するため産科婦人科の医院に児童福祉司らを配置するモデル事業を始めることを決めました。望まない妊娠による未婚や貧困に悩む妊婦を支援し、乳児の虐待死を防ごうとするためでもあります。

まず、モデル事業として 10 自治体で取り組む来年度予算の概算要求を 7800 万円計上しました。妊婦と接点の多い産院や助産所のほか貧困や家庭内暴力などで支援が必要な母子を受け入れる「母子生活支援施設」に常駐させる計画です。妊婦健診や駆け込み出産の対応で望まない妊婦を把握した場合には相談相手となり、乳児院などの施設や生活保護の相談窓口につないでいきます。妊婦が希望すれば児童相談所と連携して養子縁組に向けた支援も検討するという事です。下のグラフが示すようにこの 10 年の間に 5 歳までの虐待死は 500 人に上ります。この内の大半は実母が加害者で、若年や未婚が背景にあると推測されています。

この 10 年の間に 5 歳までの虐待死は 500 人に上ります。この内の大半は実母が加害者で、若年や未婚が背景にあると推測されています。



（あ と が き） 1) 8月28日朝、冷え込み、9月11日の朝、あの暑い日は音もなく去っていました。 2) 今月15日の新聞は県内で今年度中に100歳以上になる人は717人、過去最多になったと報じていました。最高齢者は勝山市の女性で109歳、男性は越前市の107歳。丁度100歳になるのは全246人、内、男41人、女205人。